

令和3年度 学校自己評価書

学校園番号	学校園名
425	奈良市立鳥見小学校

425奈良市立鳥見小学校

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
(1) 教育目標・教育計画		① 教育目標の設定	・目指す児童像「将来の夢を語る子」「互いを認め合う子」「自ら学ぼうとする子」「すべての命と人を大切にする子」「鳥見・富雄を愛する子」にせまるために、全教職員が協働して取り組みながら、教育目標である「つながる 学ぶ 支えあう 笑顔あふれる鳥見っ子」の育成にどれだけ迫る。	・教育目標を追求するために、どの子にも分かるユニバーサルデザインを取り入れた教育活動、あいさつ運動の継続、学校規律・学習規律の確立、全教職員の相互協力等を全職員で共通理解して実践を行った。	A	・校内で話し合う場面を持ち、全職員が共通の認識をもって教育活動にあたることができた。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業ができた。 ・作成した「鳥見っ子のきまり」を全職員で共通理解し、児童への指導を徹底した。規律の確立やあいさつなど望ましい生活習慣の改善も見られた。	・次年度以降も学習指導年間計画の修正と見直しを定期的に行う必要がある。 ・学校アンケートの結果の分析などを通して、児童の課題や教職員の指導の問題点を洗い出し、改善を行うというサイクルを定期的に行う必要がある。
		② 教育計画の作成	・本校の教育目標に重点を置いた教育計画を作成する。	・教育目標を達成するための基本方針のもと、各担当・分野・領域において、昨年度の反省を生かしながら具体的な教育計画を作成した。また、実施しながら問題点を明らかにし、改善点を加えながら進めることができた。	A	・道徳の授業においてソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、友達と支え合う心や力を養えた。 ・ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業構成の工夫を行うことができた。	・新型コロナウイルス感染症の状況を見つ小中一貫の推進計画を反映させた教育計画の評価方法を確立し、次年度の計画作成に活かしていく必要がある。 ・学校評価を反映させながら、適切な学習指導や生活指導の方法を確立していく必要がある。 ・中1ギャップを減らすために、小学校段階でできることを今後も探っていく。
		③ 教育課程の編成	・「主体的に学ぶ力の育成」についての研究 ・すべての子どもが学びやすい環境づくり ・すべての子どもが分かりやすい授業づくり ・お互いを認め合う学級づくり を柱にした教育課程の編成が行う。	・「主体的に学ぶ力の育成」を研究主題に設定し、新型コロナウイルス感染症予防に努めながら授業実践とできる範囲での研修を進めた。 ・ユニバーサルデザインに視点を当てたカリキュラムでの教育を行った。 ・年間授業時間でのバランスを考慮しながら、効果的な学習指導が行えるような教育課程を編成した。 ・学習指導要領に沿った教育課程の編成を行い、来年度に向けた見直しにも取り組んだ。	B	・ユニバーサルデザインの考えに基づいた授業を積極的にを行い、指導方法の工夫・改善を図ることができた。 ・教材教具の工夫、教育機器、ICTの活用を積極的にを行い、どの子にも分かる授業の研究を進めた。 ・全校でソーシャルスキルの学習を行い、児童理解を深める場を定期的に持ち、互いを認め合う学級づくりに生かした。	・基礎・基本的な学力のより確実な定着と、個別の学習支援の方法をさらに工夫する必要がある。 ・中、高学年の「なら科」の授業計画について、新型コロナウイルス感染症対策の点から検討する必要がある。
		④ 教育活動の評価	・児童・保護者・学校評議員からアンケート結果を反映した教育活動の検証する。 ・学校プロジェクト会議を行い、中期での反省の場を設定する。 ・各分掌毎の反省及び新年度の計画についての見直しを図る。 ・学力テストを活用した児童の学力分析及指導法の評価を全職員で共通理解し、指導計画に生かす。	・保護者対象の「学校教育に関するアンケート」を1月に実施し、本年度の取組に対しての保護者からの声に対応できるように総括を行い、来年度の計画に反映させた。また、児童・教職員へも実施し、職員会議等を通じて問題点を洗い出し、次年度への改善点を各担当で検討した。 ・年度末には各分掌毎に反省を行い、新年度の計画へと反映した。 ・学力テストの分析を行い、傾向と活動計画において重点的に意識するところについて、教員全体で共通理解した。	B	・保護者対象の「学校教育に関するアンケート」では、全ての項目で肯定的な回答が多数を占めた。 ・各分掌毎に反省を行い、改善が必要な点は次年度の計画に反映させた。	・「学校教育に関するアンケート」の内容・方法について見直しを行い、教育活動の不十分な点について積極的に拾い出しを行う。 ・「学校教育に関するアンケート」より、小中一貫教育に関する取組や保護者への情報提供を進めていく。 ・学力テスト結果の考察と今後の指導への改善点を共通理解し、さらに具体的な取り組みについて再検討する。
(2) 教科指導 ※道徳科含む		① 学習指導計画の立案	・学習指導年間計画の作成及び実施する。 ・新学習指導要領の学習指導計画の進行・修正・見直しを行う。	・新学習指導要領に合わせた学習指導計画に沿って、学習を計画的に進めることができた。また指導計画の修正・見直しを各学年において実施することができた。	B	・学習指導要領に合わせた学習計画を前年度に修正・作成し、計画に沿って学習を進めることができた。	・学習指導要領に合わせた学習指導年間計画の修正・見直しを今後も継続的に行っていき、要領と学校に即した学習指導年間計画を作成していきたい。新型コロナウイルス感染症対応版についても引き続き考えていく。
		② 学習内容の精選	・年間の授業時数の配当に合わせて、内容を精選する。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を実施する。	・新型コロナウイルス感染症対応をしながら学習内容を精選した。 ・職員全員がユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を心掛けることができた。	A	・ユニバーサルデザインを基にした授業を進めた。 ・各学年で新型コロナウイルス感染症対応版の学習形態を熟考できた。	・学習指導要領に沿った、学習指導法のさらなる改善。 ・ユニバーサルデザインの授業を進めるためのさらなる研修。
		③ 指導方法の工夫改善	・基礎的基本的な学力を育成する。 ・学習規律の定着を図る。 ・個に応じたわかりやすい指導を行う。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業実践を行う。 ・教育機器 (ICT等) の活用の促進 (タブレットの活用・Google、G-suite活用 ・ロイロノート活用 ・Qubenaの活用 など)	・基本的なノートの取り方の確認を行った。学習規律 (学習準備、チャイム着席等) を学校全体で実施し、指導してきた。 ・少人数指導や専科指導を通して、児童にとってわかりやすい授業を実践することができた。 ・全職員がユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業実践を行い、その中で教材教具を作成したり、教育機器やICT機器を活用したりしながら学習を進めることができた。 ・タブレットの基本的な使用方法について全職員と共有を行った。また、近隣校と足並みを揃えながらルールの統一を図った。 ・各学年でGoogle meet の使用方法を再確認した。また、定期的なログインを行い定着を図った。全体的には今後も操作方法の指導は必要である。 ・全職員へ研修。後に児童への指導を行った。内容を共有することやアンケート機能もあるため職員も比較的活用しやすく児童も意欲的に取り組めた。 ・単元の復習などで活用。家庭学習や朝学習で活用できるため児童へのアプローチもしやすかったように感じた。	・A ・B	・少人数指導や専科指導などを通してきめ細やかな指導をすることができた。 ・教材教具の作成や教育機器・ICT機器を積極的に活用することができた。 ・ユニバーサルデザインの授業を進めていくために、発問や板書を工夫したり、教材教具を有効的に活用したりすることができた。 ・職員・児童へ情報モラル研修と使用方法についての都度研修を行うことができた。 ・緊急時に備えて職員・児童が混乱なく活用できるように定期的な操作方法の確認をすることができた。 ・導入後は授業でも活用する場面が各学年で多くみられた。また、実践の共有も行い意欲的に取り組めた。 ・復習や学期まとめや朝学習で積極的に活用できた。また、児童も慣れた様子で問題に取り組むことができた。	・基礎的基本的な学力のより確実な定着と学習遅滞児に対する学習支援。 ・コロナにおいても児童が興味関心を持って主体的に取り組めるわかりやすく楽しい授業の計画。 ・各教科における授業の研修。 ・情報モラルについては、奈良市の方針に照らしながら本校の現状も加味しながら、さらに職員の研修を行う必要がある。 ・活用方法を更に深め、職員への研修や新たな取り組みに発展させる。
		④ 評価	・全国学力テスト (6年) を実施する。 ・各学年・各教科・領域ごとの評価基準を設定する。 ・県学力テストを実施する。 (算数について全学年実施) ・ワークシートを作成する。	・評価について、各学年で到達基準や評価内容について共通理解を図ることができた。 ・評価方法や学習過程での評価についても協議しながら実施することができた。 ・学力テストの結果を分析し、本校児童にとって補充が必要な部分を把握した上で、指導に当たった。	B	・評価方法の改善、見直しを行った。 ・鳥見小学校の児童の苦手な部分を踏まえて、改善できるように授業を進めることができた。	・学習指導要領に合わせた評価方法のさらなる研修。 ・学力テスト結果から課題を教員間で共通理解し、より具体的に指導改善に役立てていく。改善するための指導について検討していく。

令和3年度 学校自己評価書

425

奈良市立鳥見小学校

印

425奈良市立鳥見小学校

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方針
(3) 道徳教育		① 全体計画の立案	・人権教育とリンクさせながら、全体計画を立案している。	・人権教育部と共同で、全体計画を立案した。	A	A ・昨年度の総括会議で集約した意見を受けて、今年度は児童の実態に応じた取り組みを考え、スピーディーに実行することができた。 ・前年度の反省を活かし、児童の実態に即した学習を進めることができた。 ・各学年の教科学習の中で、どのような道徳的視点を持って指導するのかを話し合っている。SDGsの視点についても取り入れた。 ・各学年で授業内容の振り返りと指導方法の検討を行った。	・来年度に向けて、児童の実態を共有し、見直す必要がある。
		② 学習指導計画の立案	・前年度の取り組みの総括を受け、各教科の学習内容と道徳の児童の実態に即した指導計画を立案している。	・各学年で、児童の実態に即した学習を進めてきた。	A		・来年度に向けて、児童の実態を共有し、児童にあった取り組みを行っていく必要がある。
		③ 学習内容の精選	・教科学習の中で、どのような道徳的視点を持って指導するのか、各学年で検討している。	・各学年で重点教材を選定し、実践を進めてきた。	A		・各教科の学習の中で、どのような道徳的視点を持って指導するか、さらに共通理解した上で指導していく必要がある。
		④ 指導方法の工夫改善	・全体計画に沿って、授業を行った。	・各学年の教材について理解を深めた。	A		・授業内容の振り返りと指導方法の検討を継続し、コロナ禍に対応した指導についても考える必要がある。
(4) 特別活動		① 学級活動・学級経営	・子どもの信頼関係の構築と子どもが主体的に活動する集団づくりを実践する。	・児童理解をより深めるために、いじめアンケートを行った。 ・児童会を中心に主体的な社会貢献として募金活動を行った。 ・コロナ禍で行える学級あそびを紹介した。	B	B ・一人ひとりの児童の個性や特徴を知ること、学級での指導に生かせるようにした。 ・赤い羽根共同募金を通して、児童が主体的に活動できていた。 ・学級あそびを通して、信頼関係を構築できるようにした。 ・コロナウイルスにより、多くの行事が中止になったが、学年別で全学年が芸術鑑賞の機会を確保した。 ・感染防止に努めながら全児童が鑑賞できた。 ・コロナウイルスにより、活動が制限される中で、それぞれの委員会が工夫をしながら取り組むことが出来た。 ・限られた時間ではあるが、共通の興味・関心を追求し、学年を超えた集団での活動に意欲的に取り組めた。	・児童会や学級会の充実を図り、子どもたちが主体的に考え活動できる機会を設けていくこと。 ・コロナ禍で行える学級活動の取り組みの見直し。
		② 学校行事	・魅力ある学校行事を創造する。	・入学式やスポーツ大会など、例年と形は大幅に変わったが、無事行うことが出来た。 ・心を豊かな子を育むため、芸術鑑賞会を実施した。	B		・国の芸術鑑賞事業は素晴らしい内容であるが継続して実施が難しいため、地域人材による芸術鑑賞を検討してもよい。 ・コロナ禍で行える縦割り活動・行事の見直し。
		③ 児童・生徒会活動の活性化	・学校生活をより楽しく豊かなものにする高学年活動を展開する。	・委員会活動において、2か月に1回、児童が学校生活をよりよくするための活動を行った。	B		・コロナ禍で行える委員会活動の内容の見直し。 ・代表委員会を有効に活用し、問題を解決すること。
		④ クラブ・部活動の活性化	・共通の興味・関心を追求し、主体的に活動するクラブ活動を展開する。	・クラブ内容を毎回考え、児童が主体的に活動できるようにした。また、異学年交流も盛んになるような内容も取り入れた。	B		・限られたクラブの時間を有効に使うため、計画や内容を工夫すること。
(5) 総合的な学習の時間の指導		① 学習指導計画の立案	・「人とのふれあい」をテーマに3つの重点目標を設定し、カリキュラム案を作成	・3つの目標に基づいて、A領域として各学年に応じた単元、B領域として縦割り活動の単元、C領域として学年裁量の単元として設定し、計画案を作成した。	B	B ・各学年の年間計画において、児童の興味・関心に合った単元が設定できた。 ・今後も、ABC各領域のバランス、社会的状況を考えながら、適時、改善が必要。 ・今年度は、異校種、異学年交流による取り組みがあまりできなかった。計画の手直しが必要。 ・分野ごとの軽重があり、見直しが必要。 ・各学年、単元において、児童が楽しく学習に参加しており、地域の方や様々な人との交流や多様な体験ができた。 ・児童の自発・自主的な活動に対する適切な支援と評価を行うことができた。 ・評価カードの活用ができた。 ・学習内容を振り返ることができ、その後の学習計画をスムーズに修正できた。	・各単元の配当時間は、児童の活動実態に応じて弾力的に運用する。 ・社会状況に配慮しながら、より学習指導要領に対応したテーマに改編していく。
		② 学習内容の精選	・様々な人々と関わり、コミュニケーション能力を育成する。 ・多様な体験活動による、楽しく主体的に学ぶ力を育成する。 ・自ら課題を見つけ、進んで解決していく力を育成する。	・国際理解教育、福祉・人権教育、平和学習、ICTの各分野を各学年ごとに配置した。 ・地域人材等を活用した体験的な学習の時間を設定し異校種、異学年交流にも積極的に取り組んだ。	B		・社会状況に配慮しながら、キャリア教育や食育について、各学年の視点を当てた取り組みを今後も増やしていく。 ・「なら科」の学習については、限られた時間の中でより充実した内容にするために、内容の精選を行いながら進めていく。
		③ 指導方法の工夫改善	・「鳥見っ子に育てたい学びの系統」に沿って、学習活動を工夫・創造する。	・地域人材の確保 ・多言語文化の取り入れ ・学校行事との関連化 ・他教科からの発展等の工夫を重ね、多様な学習体験ができた。	B		・学習活動で使った教材や情報を整理・保管しているため、今後も継続していきたい。
		④ 評価	・各単元ごとに、目安となる評価基準を作成	・「見つける」「深める」「考える」の観点ごとに児童を支援するとともに評価した。 ・自己評価できるように振り返りカードを活用し、児童に振り返り活動を行わせた。	B		・カード・写真・ビデオ等の記録を活かした評価方法や学習計画を今後も構築したい。
I 教育 活	(6) 人権教育	① 人権教育推進計画の立案	・子どもたちの生活実態に焦点を合わせた人権教育推進の立案をする。	・コロナ禍の現状に合わせて、コロナ差別や情報モラル学習について取り組むなど、児童の現在の生活により密着した人権学習の内容になるよう改善した。	B	B ・人権教育年間計画が、目の前の児童の実態や生活課題に合ったものになっているかを点検し、見直し改善されているかどうか。 ・学習が深まるための時間配当がなされているかどうか。また、学習の内容が児童自身や身近な人のことを考えるところまで設定されているか。 ・教材を参考に、身近な問題を考えるまで発展させ、児童が自分の考え方を発表しあい、そのことを通じて共通の認識を持てるような指導の展開ができていくか。	・児童の実態や生活課題に合った取り組みを柔軟に行っていく必要がある。
		② 学習内容の精選	・一人ひとりが人権を意識できる具体的な問いかけができるための題材設定をする。	・児童の生活により密着した人権学習の内容になるよう、題材の設定をした。 ・「人権を確かめ合う日」を設定し、様々な人権問題を話題に取り上げて全校で取り組んだ。 ・学年や学級の実態や課題を踏まえた自主教材の採用を進めた。 ・学習の中で児童自身の自己評価を取り入れ、自らの学習姿勢を問う場を設定した。	B		・人権教育年間計画を、より児童の実態に沿う形に常に改善していく必要がある。
		③ 指導方法の工夫改善	・学習したことを生活の中で具体的な行動として生かすことのできる指導の研究を進める。 ・人権についての知識を増やし、理解を深め、主体性を育てるための学習を展開する。	・ロールプレイやアクティビティを取り入れ、児童が体感的に学習できる場を設定した。 ・全校SSTに取り組み、望ましいコミュニケーションの取り方を学習した。般化を図るため、ロールプレイや学習カードを利用した。また、全校としての大きな課題はパターンを変えながら繰り返し学習し、強化に努めた。	A		・児童が主体的に取り組める人権学習にするために、従来の教材を参考にしつつ、児童の実態に合わせた自主教材を利用する。 ・全校一斉SSTは、今年度新たに児童の実態に合わせて課題を設定し、学習することができた。来年度に向けて、課題の精選を行う。

令和3年度 学校自己評価書

425

奈良市立鳥見小学校

印

425奈良市立鳥見小学校

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方針
動 に 関 す る も の	(7) 生徒指導	① 組織的な生徒指導(校内・校外・小中連携)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部会・人権部・インクルーシブ教育部・研修部と連携して定期的に情報交換をし共通理解をはかりながら指導を行う。 少年協議会や中学校区別小中連携部会や近隣小学校や中学校と連絡を密にする。 虐待事象・いじめ事象等が起こった場合、いじめ防止生徒指導部や子そだて相談課に報告をし、相談しながら解決に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月末に定期的に翼の会を開催。職員全体で各学年・各学級の様子や問題行動等の情報交換・共通理解を行った。また2か月に一度の生徒指導部会では、校内の生徒指導についての課題事項について、対応や指導方針を協議し、全校的な共通理解を図っている。 年度当初には学習ルールや学校のきまりについて、掲示物を配布するなど共通理解を図った。また服装や持ち物の決まりについても季節に応じて共通理解を図っている。 今年はコロナに対応した月目標に代え、全職員で指導に取り組んだ。 運営委員会を中心にあいさつ運動などを行い、月目標を浸透させた。 問題事象だけでなくきまりや体制等、近隣校の情報を収集することでよりよい組織作りを目指している。 虐待事象やいじめ事象についての連絡を関係機関にすることによって学校だけで抱え込むのではなく、適切な機関に適切に支援をしてもらえるように要望をしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導における共通理解を周知徹底できたか。必要な時にケース会議を持ち、校内委員会で提起された。 課題について学校全体で共通理解が図れたか。 子育て相談課とはケース会議を通し、観察期間を十分とって手厚く見守ってほしいなどの学校の要望を伝えることができたか。 児童虐待については、学級担任、特別支援教員、養護教諭と密に連絡を取って児童の変化に早く気づくことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童理解、生徒指導に関わる情報交換、相談の体制と運営を引き続き密にしている。 児童自身の抱える課題だけでなく、家庭的な課題が大きな問題に繋がるケースが増えてきている。また、虐待ケースについては保護者への支援がも必要であり、関係機関との連携をさらに強化する必要がある。 校内としては特別支援教育・生徒指導・教育相談がそれぞれ連携し、よりきめ細やかな対応ができるように、配慮していく。
		② 問題行動の予防と指導	<ul style="list-style-type: none"> 共通理解を図り一貫性のある指導が貫けるようにする。緊急支援体制を組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動については、学年間で迅速に情報共有し、生徒指導部に報告し、事態に応じてケース会議やいじめ対策委員会等を開き、専門的な知識のある人の助言を聞きながら、組織的に指導にあたった。 毎週緊急支援体制を組み、問題が生じたときは、現場に駆けつけるなど職員全体で指導を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動を学校全体で共有し、問題行動における指導について共通理解ができたか。組織的に問題行動等に対応できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校体制で指導にあたるように、職員全体で共通理解を図るとともに、必要に応じて話し合いの場を設定して詳細な指導方針を検討していく。
		③ 教育相談・児童生徒理解	<ul style="list-style-type: none"> インクルーシブ教育部で教育相談を行い、子どもの情報を集約して支援計画を立案する。また養護教諭等、担任以外の窓口として児童理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談(インクルーシブ教育部とも調整して)を中心とした相談体制を充実し、連携しながら児童の心の問題・悩みに、適切に対応できるように実施した。 本年度は不登校傾向の児童に書く児童に応じた、手厚い対応した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童の心の問題や悩みに親身になって相談にのり、問題を解決へと導くことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> インクルーシブ教育部で協議した指導・支援の方法など、児童理解について共通理解を図る。 多様な児童の問題点につき理解を深めて柔軟に対応することが重要。
		④ 家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 個々の問題について連絡し、指導及び支援の体制を確立する。 年度初めに「鳥見っ子のくらし」11月下旬には、「鳥見っ子の冬のくらし」、また長期休業の前には「〇〇休みのくらし」を配布。「鳥見スタンプカード」を作成し、より学校の方針が保護者に伝わるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任・学年、生徒指導主任、管理職が連携をとりながら家庭訪問を行った。また、必要に応じて保護者と話し合う場を設けた。保護者の心配や要望を丁寧に聞き取り、問題に解決につなげた。 「鳥見っ子の冬のくらし」、「〇〇休みのくらし」は、各学年の発達段階に合わせて、担任が学級指導を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの問題行動について、保護者に連絡を取り、保護者と問題を共有しながら指導にあられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> きめ細やかに保護者と連絡を取り、指導の意図を伝えるなど保護者からの苦情を未然に防げるよう、教師同士が声をかけ合い、情報共有していく体制が重要。
		⑤ 関係諸機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育課、子ども家庭相談センターとの相談連携。地域安全推進委員との協力を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育課、子ども家庭相談センターへ個々の事例について相談。特に配慮が必要な児童・家庭については担任が留意して状況を把握し、継続して相談を行っている。 下校時刻表を家庭や地域に配り、地域安全推進委員と協力し、登下校指導を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 指導の事案、学校の実態について、連絡し、協力連携できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換を密にとることで、さらに連携して取り組む。
		⑥ いじめの問題について	いじめへの対処方針や指導計画を明確に示す。	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを毎学期実施し、未然防止、早期発見、早期の組織対応ができるように共通理解を図った。 学校のホームページにいじめ防止基本方針を載せた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめへ対処方針が明確であったか 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止基本方針・いじめ対策委員会等をその都度、見直していきたい。
			日頃よりいじめの実態把握・早期発見に努める。	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートの結果に素早く対応し、児童からのシグナルを早期に受け止め、学年やコーディネーター等と相談することで早期解決に努めた。 児童の生活の様子に気を配り、いじめの早期発見に努めた。また、いじめられた児童に対しては、スクールカウンセラーなどを活用し、心のケアも行うようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童のシグナルを察知し、早期発見できたか 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、アンケートや生活調などを活用し、児童との会話や様子からいじめに対して敏感に反応する感性を磨いていきたい。
			各学級の状況を学校組織として共有する。	<ul style="list-style-type: none"> いじめの問題について、一担任が判断するのではなく、学年で相談し判断するように共通理解を図った。 各学級の状況については、定期的な共通理解の場で報告したり、いじめ対策委員会へ対応するようにした。 必要に応じてケース会議を持ち、方針や現状報告を全職員に周知している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員が各学級の問題を共有できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から職員間で情報の共有ができるように、生徒指導上の事象だけに限らず、学級や児童の実態をお互いに出しやすい環境の整備を進めていきたい。
			保護者や地域と連携する。	<ul style="list-style-type: none"> 個人懇談の期間前に、いじめを早期に発見できるようにアンケートを取るなどして保護者に気になることがあれば連絡してもらうように協力を求めた。 本年度は、学級懇談会を持つ機会がなかったが、個人懇談で十分理解を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域と連携できたか 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止基本方針・いじめ対策委員会等を活用しより充実した連携に努める。
			組織的に迅速に対応する体制が整備されている。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部会・つばさの会における情報交換をし、日頃から全職員で課題事象に関する共通理解を図り、対応できるようにしている。 必要に応じてケース会議やいじめ対策委員会での相談を行い、連携を取り合って解決方法を探っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 事象に対して相談、連携を取り合って解決方法を探れたか。 いじめの問題が起こった時に即座にケース会議を開き、複数での聞き取り、指導をできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動やいじめが起こった時の支援の在り方を引き続き充実させていきたい。いじめ対策教員を中心に、ケース会議を持つことで課題となる事象への対応についての指針を示し、全職員で共通した対応ができるようにする。 スクールカウンセラーを有効活用しているが、相談ケースが一年間のうちにも増加し、十分にフォローすることが難しい。SCの年間配置数が増えれば、適時に支援を行うことができる。

令和3年度 学校自己評価書

425	奈良市立鳥見小学校	印
-----	-----------	---

425奈良市立鳥見小学校

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
(8) キャリア教育		① 組織的なキャリア教育	・児童の問題解決や体験的な活動の広がりや深まりを、複数の教員による指導や校外の支援者との協力的な指導を行う。	・コロナ感染を配慮しコーディネーターや外部講師の方の訪問を制限したが、限られた時間の中で規模を縮小して体験学習を行うことができた。	B	・地域コーディネーターの方と定期的に話し合い、相談して実施することができた。	・例年の取り組みを参考にしながら、よりよい活動を考えていきたい。
		② 進路相談	・新たな環境や課題に取り組めるよう個別に支援する。	・担任との面談の時間やスクールカウンセラーとの面談の時間を設けるなど、個別の相談の時間を設定して取り組むことができた。	A	・いじめアンケートなどをもとに児童の実態を把握し、各担任が児童と個別に相談する機会を大切にされた。	・担任以外の教員とも気軽に相談できる機会を設けていきたい。困ったときに話を聞いてもらえる場として教育相談窓口の役割も重要である。
		③ 指導方法の工夫改善	・目標及び育成する能力・態度、教育内容・方法等との関係から、児童にどのような力が身に付いたのかを明確にする。	・活動が制限されながらも、一定の成果を得ることができている。さらに児童の様子をしっかりと観察し改善していく必要がある。	B	・成長の記録やキャリア教育に関係する資料を学年ごとに作成し振り返り時間を設定している。卒業時には、ファイリングしたものを中学校へ引き継ぐこととしている。	・学期終わりなどに、振り返りシートやワークシートを活用し、自身の成長を振り返る時間を設けた。
		④ 勤労観・職業観に関する指導	・地域や産業との結びつきを強化し、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を指導する。	・道徳教材や自主教材を使って、子どもたちに働くことの意義や大切さ学ばせる機会を設けた。また、学年園や植木鉢で花や野菜を育てながら勤労生産学習に取り組む、水やりや手入れを通して、生長や収穫の喜びを味わうことができた。	B	・コロナにより、清掃や委員会などの活動が制限され、協力して「働く」機会や勤労体験の場が減少した。新しいことに挑戦する力、課題が出てきたときにどう対応していくかを考える経験も不足してきているように思われる。	・学校・学年行事等で、児童が自主的に取り組む内容を取り入れるなどして、力を育成を図ってきたい。
		⑤ 家庭・地域社会との連携	・家族や地域の方の経験や知識を学校の教育活動への参画を得る。	・活動が制限されながらも、各学年の体験学習や学習支援など、地域の方と一緒に教育活動を行うことができた。	A	・地域の行事等、地域の方と教員、児童が関わる機会が設けられている。	・これまでのように地域の方と関わる行事を大切にしていきたい。
(9) 特別支援教育		① 特別支援教育の推進体制	・全職員で児童理解をするためのつばさの会、校内4部会のインクルーシブ教育部会、特別支援教育校内委員会、ケース会議等で支援の検討を行い、必要な支援を行う。 ・職員室待機の教員による緊急支援体制(緊急な支援が必要な児童のために)を活用して支援を行う。 ・全職員閲覧可能な個別の教育支援計画、個別の指導計画(通常学級用・ステップルーム用、通級指導教室用)、ワンポイント支援一覧表を作成する。	・インクルーシブ教育部会では、児童の実態より職員に必要な研修を企画、実施した。 ・つばさの会で支援の必要な児童について情報共有し、ケース会議ではその都度具体的な児童の様子から支援の方策を考えた。必要な話し合いを経て、実際の指導につなげることができた。 ・ワンポイント支援の研修では、児童の顔写真を用いて話をし、全職員で支援が必要な児童の把握ができた。	B	・今年度の児童の実態に合わせた内容で職員研修を企画、実施した。 ・つばさの会で名前を挙げた児童の様子を継続して報告することで、全職員で児童の様子を把握し、日常の支援につなげることができた。 ・ワンポイント支援は随時新規登録することができ、年度の途中で支援が必要な児童を把握することができた。	・インクルーシブ教育部会やケース会議で話し合ったことを全職員で共有し、よりよく連携して対応していけるよう、定期的に発信していく機会をこれからも確保していく。 ・個別の指導計画は児童の実態に合わせて変更、更新していくことを徹底する。
		② 特別支援学級での指導方法の工夫・改善	・学習面、生活面など学校生活全般において、個々の状態とニーズに応じた具体的な支援を行う。 ・自立活動を計画的に実施し、個々の状態や特性に配慮しながら、将来的な生活自立を目指して指導を行う。 ・特別支援学級での集団活動、小集団学習を通し、コミュニケーション能力と人間関係形成の礎を築く。	・個別の教育支援計画、個別の指導計画をもとに、教育的ニーズに対応した指導ができた。複数の教員で指導にあたることで、入級しているすべての児童の共通理解を進めることができた。 ・「からだづくり」「認知・感覚のトレーニング」「コミュニケーション」を柱に活動を組み立て、年間を通して実施することができた。 ・コミュニケーションの学習として、SS学習に取り組んだ。異学年交流を多く取り入れ、人と関わるよさを感じさせることができた。よりよい人との関わり方を指導し続けた。	A	・各児童の実態とニーズに合わせて、小集団学習に取り組んだ。活動により、グループの編成を変えて取り組み、色々な教員や友だちと触れ合う機会を作ることができた。 ・高学年の児童には低学年の児童を導く役割を通して自己有用感を持たせることができた。低学年の児童は高学年の児童に導かれながら、集団で活動する楽しさを感じさせることができた。 ・毎日1～2時間目に自立活動を設定し、体を動かしたり、作業的な活動に取り組んだ。継続して取り組むことで、集団規律が育ち、気持ちの安定が見られた。	・教員間の連携をより密にし、支援を必要とする児童に必要な支援がいきわたるように努めていく。 ・5月の「人権を確かめ合う日」の放送だけでなく、各学年や学級の発達段階、ニーズに応じて、学級担任と特別支援学級担任、人権教育担当などが連携し、引き続き啓発に努める。 ・保護者や学級担任からの児童に対する相談を受け、特別支援学級の弾力的運用を活用することで速やかな対応を図ることができた。
		③ 通常の学級での指導方法の工夫改善	・特別支援教育の職員研修をもち、通常学級でできる支援を考え、どの子にもわかりやすい授業を展開するために、ICTの活用も含めたユニバーサルデザインの授業づくりを推進する。 ・通常学級在籍で支援が必要な児童へ、学びの場の多様化を含めた柔軟な支援を行う。 ・「人権を確かめ合う日」を利用して、全校児童に本校の特別支援教育についての理解を進める学習を行う。 ・通常学級で、ステップルームの啓発授業を行う。	・インクルーシブ教育の考え方に基づく学級づくりと授業づくりの研修を企画、実施した。 ・通級指導教室では、ことばの指導、コミュニケーション・社会性の指導、学習の支援を行った。 ・1年生で「ひらがな単語聴写テスト」(読み書き困難のスクリーニング)を行い、その実態に応じて個別に対応したり、学級全体で読み書きのワーク(MIM教材)での指導に取り組んだりした。 ・「人権を確かめ合う日」の校内放送に合わせて、1・2年生の学級で「ステップルームってどんなところ?」と題した啓発授業を行った。 ・1年生の学級では、学年に在籍する児童の実態に合わせた啓発授業を行った。	A	・登校しにくい児童も別室に直接登校したり、放課後の時間に登校したりして、柔軟に対応している。 ・自校通級指導を行い、適切な言葉かけや行動を身につけ、友人とのトラブルが減り、自己肯定感を高めることができた。 ・通常学級で啓発授業を行うことで、児童が自然に支援や配慮の必要な児童に接することができるようになった。 ・「ひらがな単語聴写テスト」の結果をもとに学級指導、個別指導を行い、期間をおいて再テストを行うことでひらがなの習得状況をより把握できるようにした。2年生への引継ぎも出来ている。 ・「人権を確かめ合う日」の校内放送では、絵本教材を用いて身体障害に関する啓発を行うことができた。	・教育的ニーズをもつ児童にわかりやすい授業や環境が、全児童にとってわかりやすいことを再確認し、研修を進めていく。 ・学級での支援の方策を全職員で検討し、学級担任を中心にしながら全職員で対応していく。 ・教育的ニーズは多岐にわたり、ニーズをもつ児童も増加しているため、必要な支援を行うための人員確保が必要である。
		④ 家庭との連携	・保護者の悩みや思いを大切にしながら、子どもにとってよりよい方策を共に考える。 ・家庭と学校が協力して子どもを支援していけるよう、意思の疎通を図る。	・日常より、連絡帳や電話等で家庭連絡や家庭訪問をこまめに行い、連携を図った。 ・希望者には、「『困っている子』から学び合う会」を年5回計画するとともに、随時教育相談を行った。 (コロナの影響で今年度『困っている子』から学び合う会は実施できなかった。)	A	・連絡帳、電話、家庭訪問、教育相談、スクールカウンセラーへの相談など、あらゆる方法をとりながら連携することができた。	・『困っている子』から学び合う会は、希望者を募り、今後も継続する方向で考えている。 ・保護者との連携は今後も密にとっていく。
		⑤ 関係機関との連携	・福祉機関(児童デイサービス、こども家庭相談センターなど)や教育機関、医療機関、警察など関係諸機関と連携を進めていく。 ・小中一貫教育として富雄中学校区の学校と連携を進め、6年生の中学校に対する不安を軽減できるように努める。 ・保幼小連携により、新入児童の様子を知り、保護者とも面談することで特別支援教育のことを知ってもらい、より良い小学校生活のスタートが切れるように努める。	・児童の支援の方法に合わせ、それぞれの関係機関と連携をとった。 ・富雄中学校、鳥見幼稚園と連携を深め、情報を共有して子どもの様子を観察することで、子どもが安心して学校生活を送ることができるよう配慮している。 ・園訪問を実施し、支援の必要な新入児童の観察と情報収集をすることができた。	A	・関係機関とこまめに連絡をとり、必要のあるときにケース会議を開いて児童に対する支援を検討することができた。 ・中学校の教員に来校してもらい、進学に向けての相談とともに連携を進めた。 ・新入児童に対して、園訪問をして様子を観察したり、学校見学に参加してもらったりして、スムーズに就学につなげられるように努めた。	・新入児童、保護者のニーズを丁寧に聞き取り、本校の特別支援教育に理解をもらいながら、スムーズに就学できるよう、今後もより連携を密にしていく。 ・生徒指導面も含めて指導を計画する場合、福祉機関等との連絡が必要になってくる。今後も関係機関との連携を密にとって対応し、児童の生活の安定を図ってきたい。

令和3年度 学校自己評価書

425

奈良市立鳥見小学校

印

425奈良市立鳥見小学校

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策	
(10) 体力向上推進		① 体力向上推進計画の立案	・前年度の体力テストから、児童の実態に合った体力向上につながる計画を立案できたか。	・前年度の3月にプランニングシートを作成し、児童の実態に即した計画を各学年体育学習に取り入れた。	B	B	・体力テストの結果を生かす指導計画が作成でき、それに沿った体育学習を行った。	・次年度以降の体育科学習指導計画の修正と見直しを定期的に行う必要がある。
		② 体育的行事	・児童が運動を好きになるような体育的行事を執り行えたか。	・運動会は中止になったものの、感染対策をした上で体育参観を行った。	B		・体育参観に向けての練習を意欲的に取り組んでいる児童が多かった。	・さらに児童が運動を好きになるように、コロナ過でも実施できる行事の在り方を考えていく。
		③ 体力テストの活用	・体力テストの結果を活用し、児童の体力の実態を知ることができたか。	・年度当初の4月に実施し、実態把握に努めた。結果も全体で共有した。	B		・体育参観や、体育科学習を進める上で参考になった。	・体育部で検討し、体力テストの結果をもとにさらなる系統性のある計画の作成が必要。
		④ 基本的な生活習慣	・児童が自ら体を動かすような取り組みを行えたか。	・外遊びの推奨や、みんな遊びの取り組みなど、遊びを通して運動量の確保を促したことで、外遊びに消極的だった児童も参加することが増えた。	B		・休み時間に外で遊ぶことで、体を動かす機会が増え、運動量を確保できた。	・全校で共通意識を持って、今後も声かけや取り組みを継続し、見守っていく。
(1) 組織運営		① 校長のリーダーシップ	・インクルーシブ教育ユニバーサルデザインの授業などの視点を取り入れた授業改善を目指し、確かな学力の定着を意識し、個々の教員の個性を生かした経営を行う。	・「鳥見っ子のきまり」「当たり前だけど大切なこと10か条」「ユニバーサルデザインチェックリスト」等を職員で共通理解し教育活動を行った。 ・教職員及び児童に対して学校評価アンケートを行い、校内にて分析を行い、次年度の計画に生かす。保護者アンケートについては、Webを活用して行い、業務の効率化を行った。 ・昨年度、学校運営協議会でいただいた「学校活動の周知・広報」について、具体的に取り組んだ。 ①校長室前に掲示板を新設し、全校でのSS学習や人権集会の様子を紹介し、地域や保護者、児童へ啓発、広報を行った。 ②児童昇降口に掲示板を新設し、お世話になっている地域の方の顔写真を掲示するなど、児童への周知を行った。 ③HPを親しみやすくリニューアルし、更新を随時行った。 ④学校だよりでは、児童の様子に加え、教育活動にかかわる関係機関等との連携について周知を図った。 ・学習参観を実施することが難しかったため、classroomを活用して、自宅で親子ともに学級の学習の様子を見ていただく機会を持った。	A	B	・保護者アンケートを通して学校活動に対する評価を行い、また、学校運営協議会委員による評価アンケートや意見交換を通して検証を行った。 ・児童のあく集うと教職員の業務の効率化の両面から検討を行った。 ・コロナ感染症感染拡大予防策に基づいて適切に行事を運営した。 ・学校運営協議会委員によるアンケートによって教員に対する評価をいただいた。 ・マスク生活の中でも、児童が地域のボランティアや見守りの方について知る機会を設けることができた。 ・学校運営協議会で、学校教育活動の周知に関して評価をいただいた。	・コロナ禍において体育参観を設けることはできなかったが、学習参観及び学級懇談会を持つことが難しかった。引き続きICT機器を活用するなどして学校の取組の周知を行うとともに、学習参観の設け方について検討が必要である。 ・引き続き掲示板を活用し、児童と地域のつながりをつくる取り組みを進める。 ・職員及び児童が、「コロナ慣れ」することのないよう、引き続き感染拡大防止の対策を重視しながら、学校教育活動を進める。
		② 学校経営目標・方針	・「一人一人が大切にされる学校」「楽しさの中にも規律のある学校」「保護者・地域の方と共に子どもを育てる学校」を目指す学校像として具現化を図る。	一人一人の児童の状況に合わせて、全職員が共通理解の上、適切にかかわることができるよう、校内教育支援体制の見直しを行った。 ・「富雄・鳥見を愛する子」の育成に向けて、新たに「世界遺産学習鳥見版」「赤い羽根の共同募金」に取り組んだ。	B		・学校評価アンケート及び学校運営協議会委員からの意見をいただき、検証した。 ・目指す児童像に向けた新しい取組を実施できたか。	・新しい取組の意義を職員間で確認し、継続した活動、取組となるよう引き継ぐ。
		③ 教職員の適正配置と運営への参加意識	・意欲的に業務遂行できるように適材適所の人事配置を行う。 ・自己申告シートによる教職員の参画意識の向上を図る。	・意欲的、主体的に業務を進めることができるよう、自己申告シートをもとに個人面談を行い、助言を行った。 ・校務分掌を円滑に引き継ぐシートを有効に活用することができた。	A		・年度末の総括において、組織体制や運営の見直しを行う。	・引継ぎシートの有効活用を引き続き進める。 ・各分掌・係で保管している書類等を適切に保管、処分し、円滑な業務の引継ぎを行う。
		④ 校務分掌等の連携	・各係、分掌間での連携を進める。	・今年度新たに創設した教育相談部と生徒指導部、インクルーシブ教育部との連携を推進し、児童理解をより深める体制が整った。	A		・「つばさの会」(校内委員会)の持ち方について見なおした結果、児童理解をより深める体制が整ったか。 ・会議等において適切に行事計画が進められているか。	・校内委員会やケース会議が教員の負担とならないような進め方を研究し、取り組む。
		⑤ 会議の運営と位置づけ	・コロナ禍における修正及び変更し臨機応変に対応した効率よい会議の運営をする。	・校務支援システムを活用し、短時間で確実に打ち合わせを行い、また、ペーパーレス化を実現し、効率化を図った。 ・コロナ感染状況に応じて、会議をclassroomのmeet機能を活用して行った。	A		・校務支援システム及び会議システムの活用状況はどうだったか。	・職員間でのコロナ感染を防止するためにも、引き続きオンライン会議を行いながら、対面で行った方が有効な内容(会議)を分けて考える必要がある。
		⑥ 会議の結果	・校務支援システムを活用した事務作業等の効率化を図る。	・会議により訂正があった場合には、企画会議や校務支援システム、を活用するなど速やかに共通理解を図り対応した。	A		・会議の内容に基づいて行事等を行うことができたか。	
		⑦ 職場の人間関係	・職員が互いに支え合い、協働して児童の育成に当たることのできる温かい人間関係を構築する。	・コロナ禍において学校行事等の変更が随時求められたが、職員間でコミュニケーションを図りながら業務を進めることができた。	B		・学校評価アンケート及び学校運営協議会委員からの意見をいただき、検証した。	・各学校行事の「ねらい」を明らかにし、アフターコロナ後の行事の在り方については今後検討を重ねる必要がある。
		⑧ 学校評価の実施	・教職員・保護者及び児童に対する学校評価アンケート及び学校運営協議会委員との懇談の機会を重視し、評価をいただく。	・コロナ禍で短時間であったが、学校運営協議会を年間3回開催(うち1回は書面開催)し、学校の教育活動にかかわる評価をいただいた。	B		・学校評価アンケート及び学校運営協議会委員からの意見をいただき、検証した。 ・教職員アンケートの結果から検証する。	・学校行事や児童の様子を見ていただく機会を設定することが難しかったが、教職員と学校運営協議会の方との研修等について検討する。
		⑨ 働き方改革の実施	・働き方改革を行い、時間外勤務の削減を行う。	・前年度より時間外勤務時間が増えた。	B		・時間外勤務の統計による。	・コロナ禍による対応の為時間外勤務が増えている結果となっている。引き続き状況を見ながら業務の効率化を図る。
(2) 研究・研修		① 教員の資質能力向上を目指した組織的・計画的な校内研修の実施	・機能的な研究組織 実践的な研修および実施 主題研究テーマに則した研修会の実施	・研究組織として4部会(主題研究部・人権教育部・インクルーシブ教育部・生徒指導部)を置き、計画的に活動している。また、主題研究部において今年度は「主体的に学ぶ力の育成」～ICTやデジタル教科書を効果的に活用したユニバーサルデザインの授業づくり～をテーマとして研究を行った。	A	B	・研究4部会による実践的・計画的な取り組みができた。算数科における研究1年目の年であり、4部会や各学年で話し合いの機会をもち、授業づくりの研修を行うことができた。	・引き続き研究4部会を中心に、機能的な研究組織を構築していきたい。 ・計画的に研修の時間を確保し、実践的で役立つ研修を重ねたい。
		② 授業改善を目指した授業研究の実施	・授業公開の実施	・低中高・特支の4つの学年部会で公開授業を行った。「参観シート」に基づいて参観し、放課後には研究協議を行った。	A		・算数科において主にICTやデジタル教科書を効果的に活用する方法とユニバーサルデザインの授業づくりについて話し合い、改善点を見出すことができた。	・今年度挙げられた課題点を話し合い、来年度の算数科の授業研究に取り入れていきたい。
		③ 校外の研修への積極的な参加	・研修会・講座への参加	・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から校外研修への積極的な参加はできていない。	C		・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から校外研修への積極的な参加はできていないため。	・新型コロナウイルスの感染拡大の状況を見て、研修会や講座に参加する。
		④ 校外研修内容の報告や伝達	・スキルアップ研修の実施	・希望制で得意分野を活かして研修講座を開いた。	C		・実践的な研修講座を開く機会を設定したが、参加については個人的な差がある。	・研修への参加状況を見て、可能な限り行う。

令和3年度 学校自己評価書

425

奈良市立鳥見小学校

印

425奈良市立鳥見小学校

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
II 学 校 経 営 に 関 する も の	(3) 安全管理	① 学校安全計画の立案	・安全管理マニュアルの立案	・校内への不審者侵入時と校外への不審者出現時における学校安全管理マニュアルを作成し、全教員に周知している。	A	・校内への不審者侵入においては、実際の活用は無かったが、校外での不審者出現時や、放課後の児童を捜索する際にマニュアルに沿って動くことがあった。今後もマニュアルの共通理解徹底が必要。	・想定される事態への対応の体制、マニュアルの共通理解。
		② 学校防災計画の立案	・火災、震災の防災計画の立案	・防災管理組織、自衛消防組織を編成している。	A	・施設整備や緊急時の体制について。	・火災・震災発生時の体制、マニュアルの共通理解。 ・施設設備の早期充実が求められる。
		③ 危機管理体制の整備	・安全点検の実施 ・職員、来校者の名札の着用 ・防犯ブザーの着用 ・安全マップの作製	・毎月17日を「子ども安全の日」とし、校区・通学路安全点検、施設設備安全点検を行っている。 ・防犯カメラを4箇所、職員室にモニターを設置しており、児童が校内にいる時は通用門・南門を施錠し、入校者はインターホンで職員室と連絡をとることにしている。 ・職員、来校者は名札を着用するようにしている。 ・児童に防犯ブザーを所持する必要性について繰り返し指導し、1学期と3学期に点検を行った。	A	・安全点検が担任によって行われており、随時必要に応じて修繕・改善されている。 ・来校者はインターホンで職員室と連絡を取り、名札を着用している。 ・児童が学校にいる時間は校門を施錠し正門だけ通行できるようにして、不審者への対応、児童の安全管理を行った。 ・児童の防犯ブザーの着用率は高くなっている。	・常時、危険、危機管理の実施。 ・南門近くには、ハンビホームもあり、遅くまで児童が運動場で遊んでいることが多い。南門の防犯カメラの設置が望まれる。 ・防犯ブザーの定期的な点検による児童への防犯啓発の機会を増やす。
		④ 安全指導の工夫改善	・圧縮登校の実施 ・集団下校の実施 ・登下校指導 ・部団の確認と下校会の実施(コロナ版)	・登校時間を8:10~8:25にし、教員や地域の方、安全推進委員の方と協力し児童の安全な登校に努めている。 ・下校時は複数年で下校時刻を合わせ、方面ごとに分かれて集団的な下校を行っている。下校時も地域や安全推進委員の方が見守り活動をして下さっている。 ・下校会では、自分の部団番号を確認し、通学路、登下校時の安全の確認をしている。 ・教員による登校指導、下校指導を行っている。	A	・複数年による集団下校体制で、より安全が確保されるようになった。 ・登校指導・下校指導での児童の様子の情報共有が進められた。	・登校時間の圧縮の徹底。 ・下校時間を厳守する。 ・予防の観点における啓発教育の実施。
		⑤ 家庭との連携	・登下校票の記入 ・下校時刻表の配布 ・保護者に防犯ブザーの着用を周知徹底する ・PTAとの見守り活動	・年度初めには、児童の通学路の確認を行っている。1人になる場所や危険な場所等を家庭に確認してもらい、家庭、学校各一部ずつ保管し、登下校の実施把握に努めている。 ・登下校の安全を図るために保護者に防犯ブザー着用を周知し、家庭での防犯ブザーの所持・点検の啓発を行った。 ・地域ボランティアによる見守り活動を行った。	A	・各家庭に登下校票の記入の協力を得ている。 ・これによる危機管理意識の向上が見られる。 ・防犯ブザーの着用率は高くなってきた。	・保護者・地域との危機感、危険箇所の共通理解。 ・児童の安全を確保するために保護者の理解を深める。
		⑥ 関係機関との連携	・交通安全教室 ・地域サポートネットの活用	・奈良西警察署の方から、歩行指導・自転車の乗り方について学ぶ交通安全教室を実施した。 ・地域サポートネットを活用し、適宜情報発信を行っている。	B	・交通ルールやマナーについて詳しく確認させることが出来た。 ・地域サポートネットを活用し、適宜情報発信を行うことができた。	・今年度は11月に実施したが、なるべく1学期に設定し、児童が早く交通安全について学ぶ機会を設ける。 ・いろいろな場面で地域との連携を強化していく。
(4) 保健管理	① 学校保健計画の立案	・発達段階と季節を考慮した年間計画の作成	・月ごとに学校行事との関連を図りながら、心身・環境・生活の管理についての事項を配した年間計画に沿って取り組んだ。 ・隔月の体重測定時につき目標に合った内容で、各学級に対して養護教諭が保健指導をする時間を取った。	B	・学級活動、児童会活動、保健行事、体育・生活科・理科・保健等の教科指導を通して保健目標にせまることができたか。	・引き続き健康に関する必要な知識を身につけ生活を改善する目標を設定していく。	
	② 心のケアや健康相談の体制の整備	・カウンセリング・マインドをもって児童に接する体制作り	・管理職、担任、特別支援コーディネーター、養護教諭、生徒指導部、スクールカウンセラーと連携を図りながら、児童の心身のケアに努めた。特に新型コロナウイルスによる感染不安や登校に関わる心配事等に対しては、担任等と連携を密にしながら体制を整えた。 ・つばさの会などを通してスクールカウンセリングの必要な児童や保護者にカウンセリングを勧めた。 ・登校が難しい児童に対して、担任と連携をとりながら放課後登校や別室登校の対応について協議した。	A	・児童の心身のケアについて、保護者と連携を図りながら、具体的な指導支援をすることができたか。	・教育相談体制の充実とケース会議の時間の確保、教育相談の必要な児童や保護者への声掛けに努める。	
	③ 健康観察、健康管理能力の育成	・健康管理についての情報提供 ・学級指導及び保健に関する指導 ・食育と体力づくり	・中学校区の学校栄養職員による食育の授業を各学年実施。 ・毎月一週間、健康日記の実施。	A	・児童や保護者が自分の健康に関心をもち、自分の健康を保持増進するための情報や環境を提供することができたか。	・保健管理内容の精選化と重点化で児童自身に健康に対する関心を持たせる。 ・食育の視点にたった各教育活動への位置づけをさらに検討する。 ・体力づくりについて、運動委員会の活動等により、具体化する。	
	④ 関係機関との連携	・学校保健委員会を組織 ・学校医並びに保健・医療機関との連携	・新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、学校保健委員会は開催することは難しかった。	C	・専門機関からの講師招聘、学校医からの指導助言など、本校における学校保健に関する今日的課題について協議することができたか。	・来年度も引き続きコロナ禍が続くようであれば、書面開催等、学校保健委員会の持ち方を工夫する。	
	⑤ 学校給食の衛生管理	・給食室の環境及び給食物資等の衛生管理	・適正な給食室の衛生管理 ・衛生検査の定期的な実施	B	・衛生面、児童の健康面、食に関する安全面を十分な配慮のもと実施できたか。	・衛生・安全管理の一層の徹底をはかる。	

令和3年度 学校自己評価書

425

奈良市立鳥見小学校

印

425奈良市立鳥見小学校

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
(5) 小中一貫教育		① 組織的な運営体制	・組織的な運営体制が整っているか。	・例年、管理職・教務部・研究部・生徒指導部における部会別の推進委員会を定期的に開催するが、昨年度と今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため対面では行えなかった。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・例年定期的に行っている推進委員会が新型コロナウイルス感染症予防のため対面での情報交換を行うことな難しかったが、オンライン・書面・電話連絡で行った。 ・対面での会議等が行えなかったが、オンライン及び書面での形で開催した。 ・年間計画を見直し、6年間の学びについて、その系統性を意識して指導を行うことができた。 ・複数の教員で指導に当たった。 ・新型コロナウイルス感染症対応の為、できる形での取り組みとなった。 ・保護者への啓発を積極的に進めるために、学期に1回、小中一貫教育便りを発行することができた。 	・新型コロナウイルス感染症が治まれば、対面での会を行っていく。
		② 小中教職員の協働体制	・小中教職員の協働体制が整っているか。	・新型コロナウイルス感染症対応の為、対面での小中一貫教育研修会等が行えず、オンラインで教科部会・分掌部会を行った。	B		・新型コロナウイルス感染症が治まれば、協働体制が今後も継続できるように、密に連絡を取り合い、体制強化を図る。続くようであれば、新しい形も検討していく。
		③ 9年間の学びの系統性・連続性を踏まえた教育課程の実施	・9年間の学びの系統性・連続性を踏まえた教育課程が実施されているか。	・年間計画の擦り合わせ ・英語における教育課程の連携 ・公開授業の実施(昨年度と今年度は行えず) ・小中連絡会・引継会の実施 ・小中一貫に関するアンケートの実施	B		・さらに系統性・連続性を踏まえた教育課程が実施できるよう連携を深めていく。
		④ 家庭・地域社会との連携・情報発信	・家庭との連携・情報発信がなされているか。	・ホームページ・学校便りによる発信をした。 ・小中一貫教育便り「つながり」を学期に1回発行した。	B		・保護者アンケートの調査結果を踏まえて、更なる具体的な情報発信を行っていく。
(6) 地域との連携		① 学校情報の発信	・学校、学年便り、ホームページ等で情報を発信していく。 ・教育方針や学校の様子・連絡内容を保護者・地域に適正に伝達していく。	・学校便り「鳥見のつばさ」や学年便りやHPで学校や児童の様子などについて発信することができた。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や家庭が必要とされる学校情報について、的確に発信できたか。 ・外部評価を適切に取り入れた学校教育活動について、理解を求めることができたか。 ・感染症の状況を見極め、感染症対策を行いながら参観等の公開を実施したか。 ・PTA役員との話し合いは充分だったか。 ・PTAの事業について、活性化を図れたか。 ・幼小併設を活かした幼小連携についての具体的企画立案実施ができたか。 ・評価の結果について、職員間で話し合いをもつことができたか。 ・児童が地域行事に参加できたか。 ・地域の人材を学校で活用できたか。 	・家庭への連絡については、今後も必要な内容をきめ細やかにさくら連絡網やHPを活用し連絡していく。 ・さらに魅力あるホームページを運用していく。
		② 学校(授業)公開	・保護者に対しての学習参観を実施する。	・コロナ禍において、学習参観を十分に行うことができなかったが、HPにて発信することができた。	B		・来年度も今年同様、感染症の状況を見極め、感染症対策を行いながら適切な年間計画を立案する。
		③ P T Aの活性化	・PTA役員会・運営委員会に参加し、学校との協力体制を密にして活性化させる。	・PTAの役割についての話し合いを行い、連携を密にし、助言・承認を行い、様々な改革を行った。	B		・PTAの活性化を図るため、更なる連携を模索していく。
		④ 幼保・高等学校との連携	・新入学児童について、幼保連絡会を実施する。	・新入学児童を対象に小学校の校舎案内を実施した。 ・保幼の連絡会を行い、新入生の実態把握に努めた。	B		・感染症の状況を見極め、園児と児童が自然な形で交流ができるよう、具体的な実施計画を策定していく。
		⑤ 学校関係者評価の実施	・学校評価アンケートの実施を行う。	・学校評価アンケートを職員間で実施した。 ・その結果を次年度に生かす手だてとして役立てた。	B		・職員会議において、結果を分析し、さらに次年度に繋がるように計画を策定していく。
		⑥ 地域教育協議会との連携	・地域行事へ参加し、地域コーディネーターと連携しながら、地域で育てていく子ども像を共有し、連続性のある取り組みを行う。	・地域コーディネーターと連携し、放課後子ども教室や体験学習事などを実施することができた。	A		・学校と地域を結び、地域コーディネーターの担当と各学年の窓口を明確にし、継続してよりに深く連携できるように計画を策定していく。
(7) 施設・設備		① 教育環境の整備	・安全安心して潤いのある、美しい学校環境づくりを行う。 ・教職員の意見を取り入れ、必要な環境整備を適宜実施する。	・安全点検を適宜実施し、必要な整備を実施することができた。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の要望等に適切に対応できたか。 ・教職員の要望を適切に処理することができたか。 ・計画的に修繕を依頼し実行したか。 	・学校美化の強化を行い、安全環境のさらなる充実を図る。 ・施設設備の計画的な改修を行う。
		② 施設設備の有効利用	・既存設備が教育活動に生かされているかを確認する。	・環境整備を進め、利便性を図る努力をした。	B		・施設・設備の状況を教職員で共有し、さらなる利便性を図る。
		③ 施設設備の管理	・危険箇所・補修改善箇所の定期的な点検とそれに対して整備を実施する。	・毎月の安全点検の実施結果を集約し、迅速に業務員と連携し修繕を行った。すぐに対処できないものは、要望書をあげ、修繕を行った。	A		・さらなる教育環境の充実を行い、施設設備の保守点検の強化を行う。
(8) 情報管理		① 公文書の收受・保管	・「奈良市・奈良県学校管理運営に関する規則」に準じて、公文書を收受・管理	・公文書の内容、発先、分野に応じてファイルを作成。 ・保管期間を明記の上、整理保管。 ・電子媒体、紙媒体の双方による確認。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・公文書がファイルに正確に分類できている。 ・公文書整理簿が活用できている。 ・全学年のアンケートを取ったため、来年度以降への活用が可能となった。 ・職員の守秘義務に対して、徹底して取り組みをした。 ・USBなどの職員の取り扱いについて、管理意識が高まった。 	・公文書のファイルを定期的に整理する必要がある。
		② 公文書の作成	・学校長、教頭、事務職員、各担当者が確認の上、作成・送付・控えの保管	・文書整理簿を活用してナンバリングして整理していた。 ・公文書送付台帳を作成。	B		・継続して整理簿を活用する必要がある。
		③ 個人情報の管理・保護	・個人情報(写真)を校務に使用することについての保護者の同意を得る。 ・校務用USB・SDカードの管理 ・セキュリティーフォルダの活用	・個人情報の使用について保護者に同意書を取る。 ・校務用USBの使用を台帳管理にて管理をし、持ち出しは管理職を通して使用するようになる。使用後は所持せず、所定の位置へ返すことへの徹底。 ・校務用SDカードを使用し、デジタルカメラやビデオカメラは学校備品の機器を使用する。	B		・学級通信やホームページへの写真の掲載については、引き続き個人情報保護の観点を重視する。 ・校務用USBの管理を職員全体に呼びかけ、取り扱い方・使用方法について引き続き周知徹底する必要がある。 ・個人情報を取り扱いの慎重さがみられたので、今後も継続して取り扱う。
		④ 情報の収集	・学校評価アンケート ・いじめアンケート	・学校評価アンケートの紛失を防ぐために、また、働き方改革の視点からもさくら連絡網を使用し情報管理を行う。 ・保護者に配布をして記入をしてもらい、児童には学校で実施。その後、担任で管理し、集約をする。集約後、職員会議にて全体共有。	B		・紙媒体でなくなったため、アンケートの紛失はなくなったが、誰が回答済かの管理徹底をどのように行うか検討する必要がある。 ・保護者と児童を集約することで、今後の取り組みにいかすことができる。